



飯舘から、地元の声を届ける。

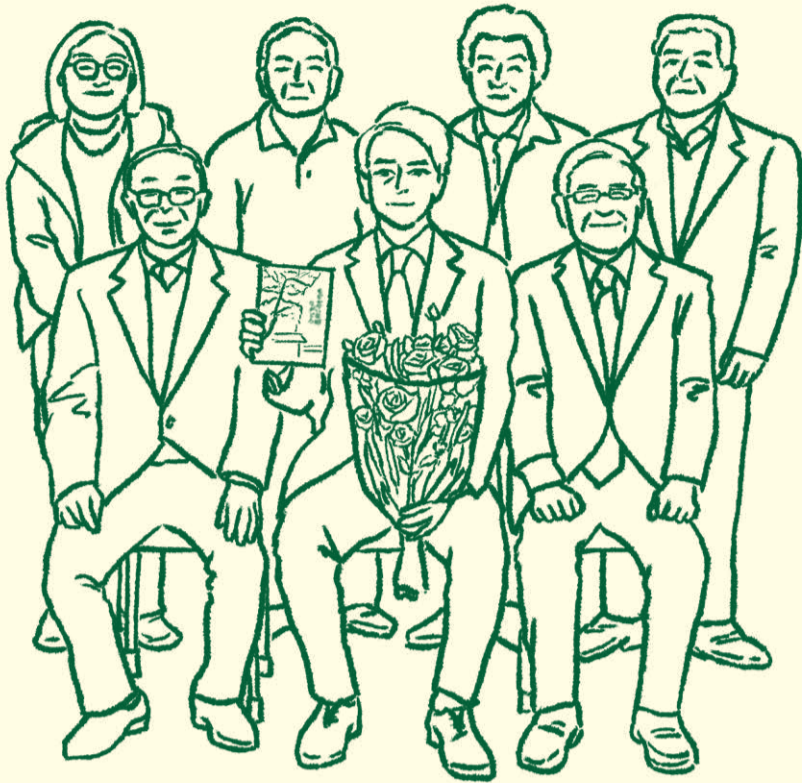
「ぜひこの事業が他の地域の模範となれるように、全力で進めてほしい」

「またここ長泥の気候に合う野菜作りを、早く再開したい」

これからへの願いを込めた言葉がありました。

「これからの再生事業に必要な人をどうするのか」「地域やコミュニティを再生するための配慮もお願いしたい」

地元だからこそその切実な発言もありました。

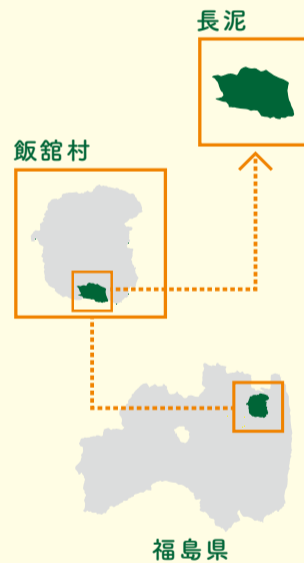


地元の思いが込められた花と本を贈られました。

「までいの村」から。

「までい」は、「手間暇惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」という飯舘の方言です。

去る2月9日、小泉進次郎環境大臣が飯舘村の再生利用実証事業の現地を視察。その折の、村長、区長をはじめとする長泥地区の住民の方々との意見交換会でのことです。小泉環境大臣は、一つひとつの意見・要望に耳を傾けながら、「小さなことからでも、変化を目に見えるものになりたい。そして皆さまと大きな花を咲かせるよう再生事業にこれからも尽力してまいります」と語りました。



長泥は時の桜並木が有名です。



福島と同じ方向を向き、同じゴールを目指す。それが私の姿勢です。共に進むこと。同じ場所に立ち同じ方向を向くから、喜びも痛みも共有できる。それを今回の飯舘村への訪問で再確認しました。また、3月5日、大臣執務室に福島から鉢植えを運び込みました。除去土壌を土で覆い、観葉植物を植えたものです。私はこの鉢植えを、福島風評・風化という課題に向き合う決意の形と考え、真の復興に向けて、一歩一歩前に進んでまいります。

環境省は飯舘村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行なっています。

「いたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたしました。